

東京警備保障株式会社

DX 推進ビジョン

代表取締役社長 北村 喜伯

2025年12月1日 策定



DX推進基本方針

「DX推進力を高めることは、顧客満足度の向上に大きく繋がること」

1. 過去の手法に拘らない意識は、DX推進のスタートです。
変化に対する挑戦意欲を持ち続けることは、仕事を進化させることに繋がります。
2. デジタル技術の導入は仕事を楽にするだけではなく、結果として会社の価値を高めることに大きく貢献します。

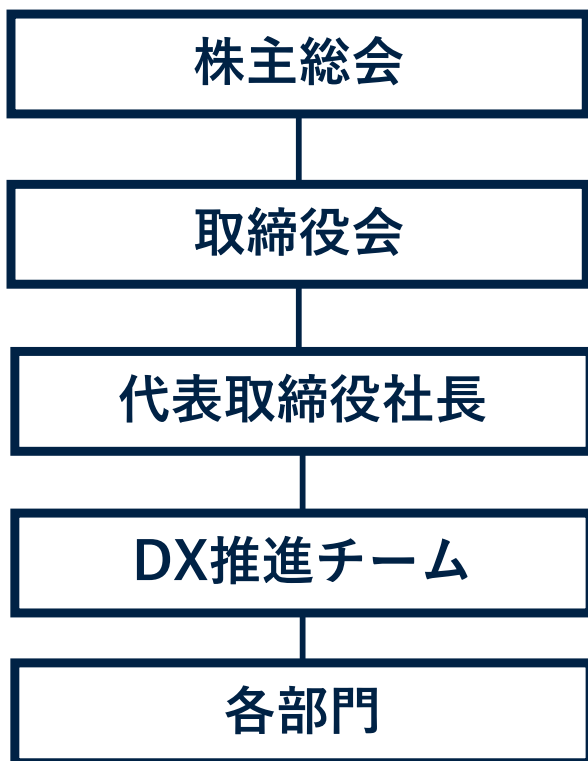


1. AIによる教育教材の作成
2. 採用活動ツールのデジタル化
3. 遠隔管理システムによる安全管理



DX推進 組織図

2025年12月にDX推進チームを発足し、3つのDX推進ビジョンを掲げると共に、デジタル技術を用いた迅速な課題解決を図る体制を整えています。



1. AIによる教育教材の作成
2. 採用活動ツールのデジタル化
3. 遠隔管理システムによる安全管理



DX推進戦略

	項目	詳細	達成の指標
1	AIによる教育教材の作成	警備員品質の維持、向上は警備会社の重要課題です。特に入社時に受講する新任研修での教育はとても大切です。今回、更なるレベルアップを目指し、AIアシスタントツールを導入することによって受講者の学習意欲向上や集中力のアップを目指します。	達成時期2026年4月
2	採用活動ツールのデジタル化	警備員採用にあたり、当社の歴史や目指すべき方向性などを面接時に理解してもらうことは重要です。口頭での説明や紙ベースの会社案内ではなく、動画を活用したデジタル化を進めます。	達成時期2026年4月
3	遠隔管理システムによる安全管理	社内や警備現場等に設置された社用パソコンを本社で管理する『遠隔管理システム』を用いて、障害対応の時間短縮と安全管理を進めます。また、過去発生した障害情報を蓄積し、そのデータを基に障害予防を行います。	障害対策時間の削減 540時間/年



DX推進シナリオ【1】

	項目	詳細
1	AIによる教育教材の作成	<p>(1)目的</p> <ul style="list-style-type: none">・警備員スキルの習得度アップ <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none">・警備員として警備業務に従事するためには、警備業法で定められた20時間以上の教育が必要です。当社では教育は業法上としてのみ必要なものと考えず、警備員の品質は顧客から信頼される原点と捉えて本社での一括研修形式で習得度の均一化を図ってきました。具体的には4日間の研修に対して、各支社から指導教育責任者が講師として本社に集まり、関係法令（警備業法をはじめ、民法、刑法等）、警備業務の基本動作などを30単元に整理し、30分から1時間の講義に分けて実施しています。 <p>しかしながら、丁寧に教育する反面、長時間の座学となるため、受講者の集中力低下が散見される事が課題でした。</p> <p>(3)今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">・30単元の内、12単元についてAIアシスタントツールを活用して講義資料を要約させた会話形式の音声講義を導入。講師だけでなく、AIの音声や画像（静止画）を導入することにより、講義にアクセントが付き集中力の持続に繋がり、今以上に習得度のアップが図られる予定です。また将来的にはAIツールの進化により動画生成の導入など、教育制度の更なるレベルアップも展望しています。



DX推進シナリオ【2】

	項目	詳細
2	採用活動ツールのデジタル化	<p>(1)目的</p> <ul style="list-style-type: none">・警備員採用における企業ビジョンの浸透化 <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none">・当社の経営課題のひとつに警備員の定着化があります。一般的に警備員は夜勤や24時間勤務などの労働が求められることもあり、他業界に比べて応募者が少なく、採用しても長期間定着しないのが業界の状況と言えます。 <p>定着化には多くの課題解決が必要ですが、会社を選ばれる（働いてもらえる）前提として当社の歴史や目指すべき方向性などを採用面談時に伝え、会社の将来のビジョンを説明することで「会社の価値を理解してもらう＝当社で働く価値を感じてもらう」ことを進めたいと考えています。</p> <p>(3)今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">・採用面談は各支社で多くの職員が行っており「会社のビジョン」を均一に説明することは極めて難しいと考えています。解決策として「アニメーション動画」を作成して面談時に応募者に見てもらうことで、スムーズに理解してもらえる体制の構築を目指しています。将来的には、人事規定、就業規則、また営業活動にかかる各種商品の紹介なども映像に広げていきたいと思えます。



DX推進シナリオ【3】

	項目	詳細
3	遠隔管理システムによる安全管理	<p>(1)目的</p> <ul style="list-style-type: none">・社用パソコンにおける障害対応の時間短縮と安全管理 <p>(2)課題</p> <ul style="list-style-type: none">・クラウド型の遠隔管理システム(以下、システムと略す)を用いて、社内や警備現場等に設置された社用パソコンを本社で遠隔管理します。このシステムは専用のクラウドサーバを通し、全ての社用パソコンの稼働状況・OS更新状況・アプリケーション利用状況・不審なプログラムの侵入有無(コンピュータウイルス感染防止)等を常時監視・記録します。また、ソフトウェアの設定等が必要な場合は、本社の管理部門が社用パソコンへリモート接続し、遠隔操作することができます。システム導入から現在までの5年間、コンピュータウイルスの感染は一度も無く、社用パソコンのメンテナンスや不具合修復に掛かる1件あたりの時間も30分程度短縮できました。今後の課題は、システムを構成するネットワーク網のパフォーマンス向上・運用管理の簡素化(一元管理)・柔軟性向上と迅速な展開(容易な拠点追加)等、これらの確立です。 <p>(3)今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">・ネットワーク網のパフォーマンス向上と運用管理の簡素化を実現させるため、新技術SD-WANを導入し、遠隔管理システムの通信速度向上とネットワークの安定性向上、そしてシステム運用の最適化を目指します。